

評価基準表			
提案項目	要求水準	求める評価基準	配点
(1) 基本性能	①「志賀島航路」及び「貸切船」として、各航路を安全で安定的に、また、快適に運航できる船舶であること。 ②緊急時に玄界島航路及び小呂島航路に投入できる船舶であること。 ③優美な外観を備えること。 ④航海速力は 21.8 ノット以上 とする。 ⑤工期末までに、完成した状態で引き渡すことが可能であること。	①「志賀島航路の特性」を理解し、全体としてバランスの良い提案内容となっているか。 （耐波性、復原性操縦性能については（2）航海性能で評価） ②緊急時に玄界島航路及び小呂島航路に投入できるか。 ③優美な外観となっているか。 ④設定条件において、航海速力が 21.8 ノット以上 となっているか。 速力が速いほど、より加点とする。 ⑤各提案内容が実現できる内容であるか。航海速力、室内騒音は実現できる内容であるか。 要求水準、提案内容を遵守したうえで、工期内の引渡しが可能なる内容であるか。	15
(2) 航海性能	①風浪の衝撃に耐え、堅牢かつ軽量の構造とし、耐波性、復原性、推進性、操船性が良好な船型及び装備を検討し、提案すること。 ②安定して航行できるよう、角度調整が可能なアンチピッチングフィンや水中翼等の固定型減揺装置を検討し、提案すること。 ③安全最少定員2名で運航できる条件を満たすこと。 ④操舵室前面窓及び側面窓は、「きんいん1」と同様に映り込み等がないよう傾斜等に留意した構造とし、くもり防止設備を装備すること。	①風浪の衝撃に耐え、堅牢かつ軽量の構造となっているか。 耐波性、復原性、推進性、操船性が良好な船型及び装備を有した船舶となっているか。 ②アンチピッチングフィンや水中翼等の固定型減揺装置が提案されているか。 ③2名で運航するために、計器類設置や視界確保はできているか。 ④操舵室前面窓の傾斜は、夜間の映り込み等がないよう配慮されているか、くもり防止設備は十分に機能するものが装備されているか。側面にも装備されているか。	15
(3) 船内性能	①様々な利用者が快適に乗船できるよう、内装やレイアウトを検討し、提案すること。 ②室内客室については、ゆったりと座れるサイズの椅子席を設置するとともに、つめて利用されずに混雑時でも空席が生じるなど、非効率的にならないよう、座席の形状やレイアウトを工夫すること。 ③デッキ客室については、快適な船旅を楽しめるようなデザインやレイアウトを検討し、提案すること。 ④ 不快な感じを与えないよう、振動及び騒音の低減について十分に考慮すること。 ⑤「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律」に適合する乗降設備並びに船内設備を装備すること。	①快適に乗船できるよう、内装やレイアウトを検討し、提案されているか。 ②椅子席の幅や背もたれ高さが十分あるか。（参考値「ゆうなみ」幅：45cm、背もたれ高さ：62cm） 可動式肘掛を備える等、つめて利用しやすい工夫、空席を生じさせない工夫があるか。 ③デッキ席の座席や立席の配分が良いか。 快適な船旅を楽しめるようなデザインやレイアウトを検討し、提案されているか。 ④主機関 90%出力、発電機2台運転状態において室内騒音を低減するよう工夫されているか。 74dB（A 特性） 以下であれば◎ ⑤バリアフリー設備で、推奨の仕様を取り入れているか。 乗降用設備に通路幅（90cm 以上）、手すり（両側に高さ 80～85cm 程度）、勾配（1/12 以下） バリアフリー便所の出入口（120cm 以上）、転回スペース（直径 150cm 以上）、おむつ交換シート 等	15
(4) 機 関 性 能 と CO2・維持管理費 削減	①主機関は、連続最大出力 750 kW未満で適正な性能のものを選定し、防振支持付きを2基装備すること。 ②補機発電機関は、適正な容量のものを選定し、防振支持付きを2基装備すること。 ③CO2等の排出削減を考慮した提案を行うこと。 ④維持管理費の削減について検討し、ライフサイクルコストを考慮した提案を行うこと。	①本船に必要な出力に対し、適切な性能の主機関を選定しているか。 ②本船に必要な電力に対し、適切な性能の補機発電機関を選定しているか。 ③CO2等の排出削減を考慮した提案となっているか。 ④維持管理費の削減について、ライフサイクルコスト（LCC）を考慮した提案となっているか。 性能と LCC のバランスは取れているか、性能↑LCC↓であれば◎	15
(5) 係船・乗降性能	①各港に設置してあるかさ上げ台及び係船ビット位置などに支障のない様に、乗降口の確保が図られるよう検討し、提案すること。 ②離着岸の操作性能の向上を図り、各棧橋に安全に、また、迅速に係船できる機器を効果的に装備すること。 ③両舷で着桟・係船できるよう、必要な設備を配置すること。	①各港における係船位置、乗降口は適正な位置となっているか。 かさ上げ台の使用の有無、ランブドアの位置、乗降時の角度貨物等の積み下ろし位置に問題はないか。 ②必要な係船設備等が適切に配置され、安全かつ迅速に係船できる提案となっているか。 ③係船機や綱取装置などの設備を、使いやすいよう配置されているか。	10

【技術点の評価方法について】

各項目に対し、各選定委員が以下の5段階で評価素点を算出し、提案項目ごとの平均を算出します。

この提案項目の平均値の合計を、小数点第2位を四捨五入した点数を技術点とします。

A：非常に優れている。

B：優れている提案が多い。

C：要求水準に対し標準的な提案。

D：要求水準を最低限満たしている提案。

E：要求水準を満たしていない。

提案項目	配点	評価素点				
		E	D	C	B	A
(1) 基本性能	15	0	4	8	11	15
(2) 航海性能	15	0	4	8	11	15
(3) 船内性能	15	0	4	8	11	15
(4) 機関性能と CO2・維持管理費削減	15	0	4	8	11	15
(5) 係船・乗降性能	10	0	3	5	7	10
合計	70	0	19	37	51	70

採点 計算例

選定委員7名		I	II	III	IV	V	VI	VII	平均
(1) 基本性能	15	B	C	B	C	C	C	B	
		11	8	11	8	8	8	11	9.29
(2) 航海性能	15	B	C	C	B	C	B	C	
		11	8	8	11	8	11	8	9.29
(3) 船内性能	15	C	B	C	B	C	C	C	
		8	11	8	11	8	8	8	8.86
(4) 機関性能と CO2・維持管理費削減	15	C	B	C	C	B	B	B	
		8	11	8	8	11	11	11	9.71
(5) 係船・乗降性能	10	C	C	B	C	B	C	C	
		5	5	7	5	7	5	5	5.57
合計	70	43	43	42	43	42	43	43	42.72

技術点→42.7
少数第2位を四捨五入